

格助詞「に」「で」の誤用研究

～タイ・中国の日本語学習者を対象に～

Error Analysis of Particles “ni” and “de”:

Analysis of Questionnaire Survey to Japanese Language Learners in Thailand and China

安田春子*, 森まどか**, 劉玉琴***, 許清平****, 小野由美子*****

Haruko YASUDA*, Madoka MORI**, LIU Yuqin***, XU Qingping****, Yumiko ONO*****

*鳴門教育大学（平成17年修了生）

* Naruto University of Education

**内モンゴル師範大学

** Neimengu Shifan Daxue

***大連理工大学

*** Dalian Ligong Daxue

****華南師範大学

**** Huanan Shifan Daxue

*****鳴門教育大学言語系国語講座

***** Naruto University of Education, Faculty of Language Education

キーワード：誤用，過剰使用，ユニット形成，助詞の選択

Keywords: error, overuse, unit formation, selection of particles

I 研究の目的と方法

助詞は日本語学習者にとって、特に難しいものと言われている。本調査では助詞の中でもとりわけ使い分けが難しいとされている格助詞「に」「で」に注目し、中国、タイの学生に「に」「で」の使用に関してどのような傾向が見られるのかを調査した。そして、先行研究で報告されている 1) 助詞「に」の過剰使用（蓮池，2004） 2) 助詞「に」「で」の選択の際の、名詞+助詞の「ユニット形成」（迫田，2001）が見られるかどうかを検証する。

調査対象者は中国の大学で学ぶ日本語学習者とタイの大学で学ぶ日本語学習者である。中国の大学生52人（D大学1年生，使用教材「新編日本語」〔吉林教育出版社〕），タイの大学生189人（S大学76人，N大学44人，R大学69人，学年の詳細は資料②に明記，使用教材「みんなの日本語I・II」〔スリーエーネットワーク〕）に調査を行った。タイのS大学，R大学，中国のD大学は筆者（安田，劉）自ら調査を行い，タイのN大学は現地の教員に依頼して行った。

調査方法はアンケート記述方式で，30問の助詞穴埋め問題を作成し学習者に記入してもらった。

アンケート用紙は森（2005）がモンゴル人日本語学習

者の助詞「に」「で」の使用状況を探る際に作成したものを使用した（アンケート用紙は文末資料①参照）。問題の中には助詞「を」「が」なども混ぜ、「に」「で」いずれかを使用する問題であるということに気付かれないよう配慮した。

II 「に」「で」の用法

今回のアンケート用紙は「新日本語の基礎I」（スリーエーネットワーク）で扱われている助詞「に」「で」の用法に基づいて作成したものである。用法の分類は益岡・田窪（1987）によるものだが，用法名は多少変更した。以下に「新日本語の基礎I」で学習する用法と，その用法に対応しているアンケート用紙の問題文を併記する。文頭の番号はアンケート用紙の問題番号を示す。

III 調査結果の分析

アンケート調査の結果，資料②・③のような結果が得られた。これらの結果をもとに，「に」「で」の使用にどのような傾向が見られるかを4つにまとめた。

【全体的な傾向】

1. 全体をみると，中国の大学生のほうがタイの大学生よりも正答率が高くなっている。
2. 中国，タイの学生ともに，助詞「に」のほうが助詞「で」よりも正答率が高い。

表1 【助詞「に」の用法】

① 具体物・抽象物の存在位置	1. つくえの上(に)あるりんごをもらってもいいですか。(位置+に) 10. はしをわたると、右(に)スーパーがあります。(位置+に) 12. あなたはどこ(に)住んでいますか。(位置以外+に) 20. わたしの母は東京(に)います。(位置以外+に)
② 動作や事態の時, 順序	3. わたしは毎朝7時(に)おきます。 8. 晩ご飯の前(に)、お風呂に入ります。
③ 着点	5. ウランバトルホテル(に)とまったことがありますか。(地名・建物+に) 15. あのレストラン(に)入りましょう。(地名・建物+に) 22. この電車(に)のりましょう。(地名・建物以外+に) 9. あそこのいす(に)すわりませんか。(地名・建物以外+に)
④ 変化の結果	21. 円をドル(に)かえてもらえますか。 25. バトさんは日本語がじょうず(に)になりました。
⑤ 受益者	6. A:きれいな花ですね。B:ええ、母(に)あげます。 16. わたしはラオさん(に)ひらがなを教えました。
⑥ 相手	24. かん字の読み方が分からなかったら、先生(に)聞きます。 29. わたしはかぞく(に)学校の友だちをしょうかいしました。
⑦ 目的	18. りょうこう(に)行くとき、何がいますか。 27. わたしはデパートへ買い物(に)行きます。

今回の結果に限って全体的な正答率を見てみると、正答率90%以上のものが多く、50%以下のものが少なかった中国の大学生は、タイの大学生よりも助詞「に」「で」に対する正しい判断ができていけると言えるかもしれない。これは各大学において日本語学習の時間の違いや、個々の学生の日本語学習年数の違いにも関係していると考えられるため、単に母語の違いであるとは今回の調査では明らかにすることができない。今後国によっての差を見るためには、調査対象者の条件を均一化し幅広い地域での調査が必要であろう。

タイの大学間においても正答率に差が見られた。大学に入学する以前に日本語学習歴が必要な大学(S大学)があったり、大学のカリキュラムが違うため、日本語学

表2 【助詞「で」の用法】

① 動作・出来事の行われる場所	11. エレベーターの中(で)たばこをすわないでください。(位置+で) 30. ゆうびんきよくの ^{まえ} 前(で)タクシーを ^{おりました} 。 (位置+で) 17. おおさか ^{えき} 駅(で)高校の友だち ^あ に会 ^あ いました。(地名・建物+で) 26. これは山田 ^{さん} さんがおおさか(で)買 ^か ったカメラです。(地名・建物+で)
② 手段・道具	28. わたしの国は日本 ^{から} から ^{ひこうき} ひこうき(で)8時間かかります。 14. わたしははし(で)ごはん(を)食 ^た べます。
③ 原因	2. びょうき(で)学校を休 ^{やす} みました。 7. 雨(で)ピクニックを ^{やめ} めました。
④ 範囲・限度	4. 飲み物の中(で)何が一番好きですか。…ジュースです。 13. クラス(で)だれがいちばんわかいですか。
⑤ 様態	19. もう少し小さいおと(で)聞 ^き いてください。 23. わたしはいつもひとり(で)学校へ行 ^い きます。

*「日本語の基礎I・II」で扱われていない用法としては、助詞「に」の「所有者」「原因」、助詞「で」の「材料」「動作主」があるが、本研究ではこれらの用法については触れないこととする。

習の時間数が各大学で異なっていることも原因の一つであると考えられる。

しかし両国に共通している傾向として、助詞「に」を使用する問題のほうが「で」よりも正答率が高いということが分かった。これは「で」を用いるところでも「に」を使用していた学習者が多かったことも原因ではないかと思われる。学習者が「に」の用法を理解した上での正答ではなく、蓮池(2004)が述べているような「に」の過剰使用の可能性がタイ、中国の大学生にもあてはまっているのではないかと推測できる。

【「に」のユニット形成が作用していると考えられる問題】

3. 助詞の前に「前, 中, 上」という〈位置〉がくる問題では、タイ、中国ともに「に」と答える大学生が多かった。

問題1. 「つくえの上(に)あるりんご(を)もらってもいいですか。」(位置+に)

(正答率:S大学98.6%, N大学97.7%, R大学85.5%, 中国100%)

問題11. エレベーターの中(で) ^{なか} たばこをすわないでください。(位置+で)

(正答率: S大学42.1%, N大学31.8%, R大学14.4%, 中国59.6%)

問題30. 「ゆうびんきょく(の)前(で) タクシーをおります。」(位置+で)

(正答率: S大学18.4%, N大学29.5%, R大学0.1%, 中国59.6%)

問題1は両国の大学生ともに最も正答率が高かった問題であるが、助詞の選択の理由として「上」という名詞とユニット形成していることが考えられるが、助詞「に」の場合、「ある」という動詞とユニット形成しているという報告もある(蓮池, 2004)。問題11, 30はこの「名詞+助詞」というユニット形成が負の効果として表れていると言えるだろう。

「前, 中」という名詞と助詞「に」が学習者にとって結びつきやすくなっている理由の一つとして、教科書で「前, 中」と「に」がセットで扱われている頻度の多さが考えられる。アンケートは「新日本語基礎I」に出てくる用法をもとに作成しているが、調査の対象となったタイの日本語学習者は「みんなの日本語」(スリーエーネットワーク)を使用している。表3, 4から「みんなの日本語」で提出されている「前, 中+助詞」は「に」のほうが圧倒的に多く、助詞「で」の提出回数が非常に少ないことが伺える。このため、迫田(2001)が述べているように「前, 中」の名詞をみると、学習者は無意識のうちに「に」のユニット形成を行って助詞を選択していると推測される。

このようなユニット形成は「名詞」だけと結びつくのではなく、先に述べたように「動詞」と結びつく場合もある。タイ, 中国両国の学習者の正答率が低かった問題18で、「へ」と答えている学習者が非常に多かったのも、その特徴を示していると考えられる。

問題18. りょこう(に) ^い行くとき、^{なに}何がいますか。(目的)

(正答率: S大学43.4%, N大学40.9%, R大学28.9%, 中国34.6%)

この結果から、学習者は「行く」という動詞をみて、「旅行」を(目的)ではなく(場所)として捉え「へ」を選択した可能性がある。

【(様態)の「で」】

4. (様態)の「で」は問題19が両国の大学生の正答率が非常に低かった。しかし同じ(様態)でも問題23はR大学を除いて正答率が高くなっている。

問題19. 「もう少し小さい音(で)聞いてください。」(様態)

表3 「みんなの日本語I」に提出されている「前」と「中」

	提出課	例文
前 + に	10 課例文	銀行の <u>前</u> にあります。
	10 課練習A	スーパーの <u>前</u> に喫茶店があります。
	10 課練習A	ミラーさんはエレベーターの <u>前</u> にいます。
	10 課練習B	店の <u>前</u> に車があります。
	10 課問題	公園の <u>前</u> に図書館と喫茶店があります。
	復習B	スーパーの <u>前</u> に何がありますか。
	復習B	駅の <u>前</u> に銀行があります。
	16 課問題	(前略) <u>前</u> に海があって、すてきな町です。
前 + で	23 課会話	降りると、 <u>前</u> に公園があります。
	14 課会話	あの花屋の <u>前</u> で止めてください。
中 + に	10 課例文	箱の <u>中</u> に何がありますか。
	10 課練習B	冷蔵庫の <u>中</u> にいろいろなものがあります。
	10 課練習B	箱の <u>中</u> にあります。
	10 課問題	冷蔵庫の <u>中</u> に何もありません。
	10 課問題	消しゴムはかばんの <u>中</u> にあります。
	10 課問題	スーパーの <u>中</u> に花屋やおいしいパン屋があります。
復習B	箱の <u>中</u> に何もありません。	

表4 「みんなの日本語II」に提出されている「前」と「中」

	提出課	例文
前 + に	27 課例文	駅の <u>前</u> に大きいスーパーができました。
	27 課練習B	駅の <u>前</u> に何ができますか。
	29 課問題	わたしは三宮駅の <u>前</u> にいます。
	32 課練習B	駅の <u>前</u> にデパートができました。
	36 課練習B	うちの <u>前</u> に高いビルができました。
中 + に	38 課練習A	駅 <u>前</u> に大きなホテルができたのを知っていますか。
	44 課問題	(前略) 大勢の人の <u>前</u> に立つと、なかなか上手にできません。
	29 課会話	<u>中</u> に何が入っていますか。
中 + で	37 課問題	その <u>中</u> に「眠り猫」があります。
	41 課問題	太郎はどのくらい海の <u>中</u> にいましたか。
中 + で	28 課練習B	毎朝電車の <u>中</u> で何をしていますか。
	33 課練習A	電車 <u>中</u> でさわぐな。

(正答率: S大学35.5%, N大学29.5%, R大学11.5%, 中国9.6%)

問題23. わたしはいつもひとり(で) ^{がっこう}学校へ行きます。(様態)

(正答率: S大学96%, N大学90.9%, R大学50.7%, 中国90.4%)

問題23の「で」は「みんなの日本語」5課で「友達と行きます」「家族と行きます」など〈人+と〉の学習のなかで、例外として「一人で」が挙げられている。この課では手段を表す「バス」や「飛行機」などは助詞「で」を使い、「人」の場合は「と」を使うことを強調し、助詞に重点を置いて教えている。このため例外である「一人で」を間違えないよう繰り返し練習している可能性もあり、学習者は「一人で」をセットフレーズとして覚えている可能性が考えられる。

一方、「音で」は「みんなの日本語」27課で出てくるが、ここでは動詞の可能形や強調の助詞「は」「も」などに重点が置かれ、「で」は練習に出てくる「もう少し大きい声で言ってください。」の一文のみである。問題19のような〈様態〉の「で」は教科書ではほとんど取り上げられず、授業の中での練習も少ないため、学習者にとっては学んだという意識が薄かったのではないかと推測する。

また「一人で」というフレーズは日常の会話においてもよく使われていると思われる。例えばタイ、中国両国の大学生で正答率が高かった、

問題25. 「バトさんは日本語がじょうず（に）になりました。」（変化の結果）

（正答率：S大学98.6%，N大学100%，R大学81.8%，中国98.1%）

は、「～になる」という表現が会話の中で頻繁に使用されているためではないかと考える。タイの学生は日ごろからよく「日本語がじょうずになりたいです。」「～さんは日本語がじょうずになりましたね。」「将来はツアーガイドになりたいです。」などの会話を口にしてることが多かった。このことから、「なる」という動詞と「に」という助詞がセットフレーズとしてインプットされやすかった可能性がある。日常会話のなかでの使用頻度や、教科書の課のなかで助詞がどのように扱われているのかも、助詞選択の重要な要因と言えるだろう。

IV 助詞「に」「で」の指導に関する留意点～調査結果をもとに～

調査の結果、両国の大学生に助詞「に」を過剰使用している傾向が現れていた。これは助詞を学習する際に「名詞・動詞+助詞」というユニット形成をして助詞を覚えているという原因が考えられる。一部学生のインタ

ビューでは、『いす』は場所名詞なので『に』とか、「動かない静的なものの中には『に』が来る」、「『前』の後はいつも『に』」など、独自の方法で助詞を選択していることが分かった。一方、「で」は「手段」、「範囲」など、「用法」で区別していることが多いようだった。

特に〈位置+に〉はユニット形成が負の効果になる場合があるため、教科書での扱い方が重要になってくると考える。学習の早い段階で〈位置+に〉だけではなく、〈位置+で〉も同時に示し二つの助詞の違いを説明する必要がある。また正答率の低かった〈様態〉の「で」など教科書での提出頻度が少ない用法は、同じような例文を繰り返し練習し、フレーズとして慣れさせるということを意識して行うことも一つの方法であろう。

今後の調査では、単に穴埋め問題の正答率を見るだけではなく、どうしてその助詞を選んだのかを探るフォローアップインタビューが重要になってくる。蓮池(2004)は助詞アンケート調査のあと、各学生にインタビュー調査を行っており、中国語母語話者の日本語能力中級レベルの学習者は、「特定の動詞や名詞の存在をヒントに助詞を選択した」という報告をのせている。中国、タイ両国の学生が何を基準に助詞の選択を行っているかを知ることは、助詞指導において有効に働くはずである。今後も調査の対象と調査方法の幅を広げて、「に」「で」の効果的な指導方法を模索していきたい。

参考文献

- 迫田久美子 (2001) 「第2章 学習者の文法処理方法」
野田尚文・迫田久美子・渋谷勝美・小林典子 『日本語学習者の文法習得』25-44
- 蓮池いずみ (2004) 「場所を示す格助詞『に』の過剰使用に関する一考察—中級レベルの中国語母語話者の助詞選択ストラテジー分析」『日本語教育』122号 52-61
- 益岡隆志・田窪行則 (1987) 『日本語文法セルフマスターシリーズ3 格助詞』くろしお出版
- 森まどか (2005) 「モンゴル語話者の日本語習得過程に関する研究—助詞の「に」と「で」を中心に—」『鳴門教育大学大学院修士論文』66-129
- 山木真理子 (2006) 「場所を表す日本語の格助詞「に」「で」と中国語の介詞“在”の対照研究—中国人日本語学習者に対する効果的な指導のために—」『鳴門教育大学大学院修士論文』

資料①

れい：わたし（は）コーヒー（が）好きです。・・・（ ）に1字入れてください。

1. つくえの上（ ）^{うえ} ありんご（ ）もらってもいいですか。
2. びょうき（ ）^{がっこう やす} 学校を休みました。
3. わたしは毎朝7時（ ）^{まいあさ じ} おきます。
4. A：飲み物の中（ ）^{の もの なか} 何が一番好きですか。
B：ジュースです。
5. ウランバトルホテル（ ）とまったことがありますか。
6. A：きれいな花^{はな}ですね。
B：ええ、母（ ）^{はは} あげます。
7. 雨（ ）^{あめ} ピクニックをやめました。
8. 晩ご飯の前（ ）^{ばん はん まえ}、お風呂^{はい}に入ります。
9. あそこのいす（ ）^{いす} すわりませんか。
10. はしをわたると、右（ ）^{みぎ} スーパーがあります。
11. エレベータの中（ ）^{なか} たばこ（ ）すわないでください。
12. あなたはどこ（ ）^{どこ} 住んでいますか。
13. クラス（ ）^{いちはんわか} だれが一番若いのですか。
14. わたしははし（ ）^{はん} ご飯（ ）^た 食べます。
15. あのレストラン（ ）^{はい} 入りましょう。
16. わたしはラオさん（ ）^{おし} ひらがな（ ）^{おし} 教えてあげました。
17. 大阪駅（ ）^{おおさかえき} 高校^{こうこう}の友達^{ともだち}に会いました。
18. りょうこ（ ）^{りょうこ} 行くとき、何（ ）^{なに} いらいますか。
19. もう少し小さいおと（ ）^{すこ ちい} 聞いてください。
20. わたしの母は東京（ ）^{はは とうきょう} います。
21. 円をドル（ ）^{えん} かえてもらえますか。
22. この電車（ ）^{でんしゃ} のりましょう。
23. わたしはいつもひとり（ ）^{がっこう い} 学校へ行きます。
24. かん字の読み方（ ）^{じ よ かた} 分からなかったら、先生（ ）^{せんせい} 聞きます。
25. バトさんは日本語^{にほんご}がじょうず（ ）^{じょうず} になりました。
26. これは山田さんが大阪（ ）^{やまだ おおさか} 買ったカメラです。
27. わたしはデパートへ買い物（ ）^{か もの} 行きます。
28. わたしの国は日本からひこうき（ ）^{くに にほん} 8時間^{じかん}かかります。
29. わたしはかぞく（ ）^{がっこう とも} 学校の友だちをしょうかいしました。
30. ゆうびんきょく（ ）^{まえ} 前（ ）^{まえ} タクシーをおりました。

資料② タイ・中国の大学における正答者数（ ）内は正答率 [%]

問題	S 大 学				N 大 学				R 大 学				中 国
	1年22人	3年26人	4年28人	全体76人	2年37人	3年6人	4年1人	全体44人	2年27人	3年39人	4年3人	全体69人	全体52人
1	22(100)	25(96.1)	28(100)	75(98.6)	36(97.2)	6(100)	○	43(97.7)	24(88.8)	33(84.6)	2	59(85.5)	52(100)
2	11(50)	23(88.4)	23(82.1)	57(75)	25(67.5)	6(100)	○	32(72.7)	5(18.5)	22(28.2)	3	19(27.5)	48(92.3)
3	20(90.9)	26(100)	27(96.4)	73(96)	37(100)	6(100)	○	44(100)	20(74)	35(89.7)	3	58(84)	52(100)
4	8(36.3)	15(57.6)	16(57.1)	39(51.3)	13(35.1)	4(66.6)	×	17(38.6)	3(11.1)	5(12.8)	1	9(13)	32(61.5)
5	8(36.3)	19(73)	25(89.2)	52(68.4)	17(45.9)	4(66.6)	○	22(50)	4(14.8)	5(12.8)	2	11(15.9)	23(44.2)
6	11(50)	19(73)	21(75)	51(67.1)	24(64.8)	3(50)	○	28(63.6)	8(29.6)	22(56.4)	2	32(46.3)	48(92.3)
7	11(50)	19(73)	22(78.5)	52(68.4)	21(56.7)	6(100)	×	27(61.3)	2(0.7)	3(0.7)	3	8(11.5)	27(51.9)
8	20(90.9)	25(96.1)	27(96.4)	72(94.7)	33(89.1)	5(83.3)	○	39(88.6)	20(74)	27(69.2)	3	50(72.4)	52(100)
9	9(40.9)	18(69.2)	20(71.4)	47(61.8)	16(43.2)	4(66.6)	○	21(44.7)	0	4(10.2)	0	4(0.5)	37(71.2)
10	19(86.3)	23(88.4)	26(92.8)	68(89.4)	22(59.4)	5(83.3)	×	27(61.3)	11(40.7)	21(53.8)	3	35(50.7)	39(75)
11	6(27.2)	9(34.6)	17(60.7)	32(42.1)	10(27)	3(50)	○	14(31.8)	6(22.2)	2(0.5)	2	10(14.4)	31(59.6)
12	22(100)	26(100)	25(89.2)	73(96)	27(72.9)	5(83.3)	○	33(75)	12(44.4)	23(58.9)	3	38(55)	47(90.4)
13	6(27.2)	15(57.6)	13(46.4)	34(44.7)	13(35.1)	5(83.3)	×	18(40.9)	3(11.1)	8(20.5)	1	12(17.3)	45(86.5)
14	19(86.3)	26(100)	28(100)	73(96)	26(70.2)	6(100)	○	33(75)	16(59.2)	19(48.7)	3	38(55)	43(82.7)
15	14(63.6)	24(92.3)	27(96.4)	65(85.5)	26(70.2)	6(100)	○	33(75)	9(33.3)	20(51.2)	3	32(46.3)	49(94.2)
16	15(68.1)	26(100)	27(96.4)	68(89.4)	29(78.3)	5(83.3)	○	35(79.5)	17(62.9)	29(74.3)	2	48(69.5)	45(86.5)
17	14(63.6)	23(88.4)	20(71.4)	57(75)	25(67.5)	6(100)	○	32(72.7)	17(62.9)	15(38.4)	3	35(50.7)	41(78.8)
18	6(27.2)	11(42.3)	16(57.1)	33(43.4)	16(43.2)	1(16.6)	○	18(40.9)	8(29.6)	11(28.2)	1	20(28.9)	18(34.6)
19	3(13.6)	9(34.6)	15(53.5)	27(35.5)	9(24.3)	4(66.6)	×	13(29.5)	3(11.1)	4(10.2)	1	8(11.5)	5(9.69)
20	16(72.7)	25(96.1)	27(96.4)	68(89.4)	31(83.7)	6(100)	○	38(86.3)	17(62.9)	27(69.2)	2	46(66.6)	50(96.2)
21	9(40.9)	22(84.6)	20(71.4)	51(67.1)	9(24.3)	5(83.3)	×	14(31.8)	5(18.5)	16(41)	2	21(30.4)	31(59.6)
22	13(59)	25(96.1)	25(89.2)	63(82.8)	24(64.8)	4(66.6)	○	29(65.9)	9(33.3)	14(35.8)	3	26(37.6)	48(92.3)
23	21(95.4)	25(96.1)	27(96.4)	73(96)	33(89.1)	6(100)	○	40(90.9)	15(55.5)	17(43.5)	3	35(50.7)	47(90.4)
24	14(63.6)	7(26.9)	22(78.5)	43(56.5)	25(67.5)	6(100)	○	32(72.7)	17(62.9)	29(74.3)	3	49(71)	47(90.4)
25	21(95.4)	26(100)	28(100)	75(98.6)	37(100)	6(100)	○	44(100)	17(62.9)	36(92.3)	3	56(81.1)	51(98.1)
26	14(63.6)	21(80.7)	24(85.7)	59(77.6)	25(67.5)	6(100)	○	32(72.7)	13(48.1)	18(46.1)	2	33(47.8)	49(94.2)
27	16(72.7)	23(88.4)	28(100)	67(88.1)	29(78.3)	5(83.3)	○	35(79.5)	5(18.5)	13(33.3)	3	21(30.4)	49(94.2)
28	16(72.7)	20(76.9)	25(89.2)	61(80.2)	29(78.3)	6(100)	○	36(81.8)	8(29.6)	13(33.3)	1	22(31.8)	52(100)
29	12(54.5)	20(76.9)	24(85.7)	56(73.6)	13(35.1)	5(83.3)	○	19(43.1)	8(29.6)	26(66.6)	2	36(52.1)	20(38.5)
30	2(0.9)	4(15.3)	8(28.5)	14(18.4)	9(24.3)	4(66.6)	×	13(29.5)	0	1(0.2)	0	1(0.1)	31(59.6)

※N大学4年生1名は、正答○・誤答×で表した。

※R大学4年生3名は、少数のため正答率を出していない。

資料③ 用法別にみた正答率（ ）内は正答率 [%]

助詞「に」	問題	S 大 学				N 大 学				R 大 学				中 国
		1年22人	3年26人	4年28人	全体76人	2年37人	3年6人	4年1人	全体44人	2年27人	3年39人	4年3人	全体69人	全体52人
存在（位置+に）	1	22(100)	25(96.1)	28(100)	75(98.6)	36(97.2)	6(100)	○	43(97.7)	24(88.8)	33(84.6)	2	59(85.5)	52(100)
	10	19(86.3)	23(88.4)	26(92.8)	68(89.4)	22(59.4)	5(83.3)	×	27(61.3)	11(40.7)	21(53.8)	3	35(50.7)	39(75)
存在（位置以外+に）	12	22(100)	26(100)	25(89.2)	73(96)	27(72.9)	5(83.3)	○	33(75)	12(44.4)	23(58.9)	3	38(55)	47(90.4)
	20	16(72.7)	25(96.1)	27(96.4)	68(89.4)	31(83.7)	6(100)	○	38(86.3)	17(62.9)	27(69.2)	2	46(66.6)	50(96.2)
時・順序	3	20(90.9)	26(100)	27(96.4)	73(96)	37(100)	6(100)	○	44(100)	20(74)	35(89.7)	3	58(84)	52(100)
	8	20(90.9)	25(96.1)	27(96.4)	72(94.7)	33(89.1)	5(83.3)	○	39(88.6)	20(74)	27(69.2)	3	50(72.4)	52(100)
着点（地名・建物+に）	5	8(36.3)	19(73)	25(89.2)	52(68.4)	17(45.9)	4(66.6)	○	22(50)	4(14.8)	5(12.8)	2	11(15.9)	23(44.2)
	15	14(63.6)	24(92.3)	27(96.4)	65(85.5)	26(70.2)	6(100)	○	33(75)	9(33.3)	20(51.2)	3	32(46.3)	49(94.2)
着店（地名・建物以外+に）	9	9(40.9)	18(69.2)	20(71.4)	47(61.8)	16(43.2)	4(66.6)	○	21(44.7)	0	4(10.2)	0	4(0.5)	37(71.2)
	22	13(59)	25(96.1)	25(89.2)	63(82.8)	24(64.8)	4(66.6)	○	29(65.9)	9(33.3)	14(35.8)	3	26(37.6)	48(92.3)
変化の結果	21	9(40.9)	22(84.6)	20(71.4)	51(67.1)	9(24.3)	5(83.3)	×	14(31.8)	5(18.5)	16(41)	2	21(33.3)	31(59.6)
	25	21(95.4)	26(100)	28(100)	75(98.6)	37(100)	6(100)	○	44(100)	17(62.9)	36(92.3)	3	56(81.1)	51(98.1)
受益者	6	11(50)	19(73)	21(75)	51(67.1)	24(64.8)	3(50)	○	28(63.6)	8(29.6)	22(56.4)	2	32(46.3)	48(92.3)
	16	15(68.1)	26(100)	27(96.4)	68(89.4)	29(78.3)	5(83.3)	○	35(79.5)	17(62.9)	29(74.3)	2	48(69.5)	45(86.5)
相手	24	14(63.6)	7(26.9)	22(78.5)	43(56.5)	25(67.5)	6(100)	○	32(72.7)	17(62.9)	29(74.3)	3	49(71)	47(90.4)
	29	12(54.5)	20(76.9)	24(85.7)	56(73.6)	13(35.1)	5(83.3)	○	19(43.1)	8(29.6)	26(66.6)	2	36(52.1)	20(38.5)
目的	18	6(27.2)	11(42.3)	16(57.1)	33(43.4)	16(43.2)	1(16.6)	○	18(40.9)	8(29.6)	11(28.2)	1	20(28.9)	18(34.6)
	27	16(72.7)	23(88.4)	28(100)	67(88.1)	29(78.3)	5(83.3)	○	35(79.5)	5(18.5)	13(33.3)	3	21(30.4)	49(94.2)

助詞「で」	問題	S 大 学				N 大 学				R 大 学				中 国
		1年22人	3年26人	4年28人	全体76人	2年37人	3年6人	4年1人	全体44人	2年27人	3年39人	4年3人	全体69人	全体52人
動作の場所（位置+で）	11	6(27.2)	9(34.6)	17(60.7)	32(42.1)	10(27)	3(50)	○	14(31.8)	6(22.2)	2(0.5)	2	10(14.4)	31(59.6)
	30	2(0.9)	4(15.3)	8(28.5)	14(18.4)	9(24.3)	4(66.6)	×	13(29.5)	0	1(0.2)	0	1(0.1)	31(59.6)
動作の場所（地名・建物+で）	17	14(63.6)	23(88.4)	20(71.4)	57(75)	25(67.5)	6(100)	○	32(72.7)	17(62.9)	15(38.4)	3	35(50.7)	41(78.8)
	26	14(63.6)	21(80.7)	24(85.7)	59(77.6)	25(67.5)	6(100)	○	32(72.7)	13(48.1)	18(46.1)	2	33(47.8)	49(94.2)
手段・道具	14	19(86.3)	26(100)	28(100)	73(96)	26(70.2)	6(100)	○	33(75)	16(59.2)	19(48.7)	3	38(55)	43(82.7)
	28	16(72.7)	20(76.9)	25(89.2)	61(80.2)	29(78.3)	6(100)	○	36(81.8)	8(29.6)	13(33.3)	1	22(31.8)	52(100)
原因	2	11(50)	23(88.4)	23(82.1)	57(75)	25(67.5)	6(100)	○	32(72.7)	5(18.5)	22(28.2)	3	19(27.5)	48(92.3)
	7	11(50)	19(73)	22(78.5)	52(68.4)	21(56.7)	6(100)	×	27(61.3)	2(0.7)	3(0.7)	3	8(11.5)	27(51.9)
範囲・限度	4	8(36.3)	15(57.6)	16(57.1)	39(51.3)	13(35.1)	4(66.6)	×	17(38.6)	3(11.1)	5(12.8)	1	9(13)	32(61.5)
	13	6(27.2)	15(57.6)	13(46.4)	34(44.7)	13(35.1)	5(83.3)	×	18(40.9)	3(11.1)	8(20.5)	1	12(17.3)	45(86.5)
様態	19	3(13.6)	9(34.6)	15(53.5)	27(35.5)	9(24.3)	4(66.6)	×	13(29.5)	3(11.1)	4(10.2)	1	8(11.5)	5(9.69)
	23	21(95.4)	25(96.1)	27(96.4)	73(96)	33(89.1)	6(100)	○	40(90.9)	15(55.5)	17(43.5)	3	35(50.7)	47(90.4)